

## 多様性

3年1組 4番 内田理多  
3年1組 5番 岡本もあ  
3年2組 6番 岡本あかり

Key words: 「宗教」「LGBTQ+」「言葉」

### 1. はじめに

近年、私たちは多様性という言葉を実日常的に聞いている。でも、その多様性ってそもそも誰にとっての多様性なのだろうか。誰かの多様性を尊重するために、他の誰かの侵害につながっているかもしれない。誰にとっての多様性が過ごしやすい社会と言えるのだろうか。

「多様性とは何なのか」私たちはその言葉の意味を今一度考える必要がある。「多様性」の言葉の意味を考えるにあたって、現在世界中で注目されているLGBTQ+に焦点を当てた。

### 2. 序論

私はフランスに留学をして、自分の知らない多文化に触れた。イスラム教やキリスト教、白人や黒人など、さまざまな背景を持つ友人たちと出会い、文化の違いや多様性に興味を持つようになった。日本で育った私は、日本の価値観しか知らなかったが、異文化に触れることで自分の視野がいかにか狭かったかを実感した。そこで、フランスでの留学経験をもとに、宗教とLGBTQ+の関係についても考察することにした。

### 3. 本論

私たちは校内で「LGBTQ+への過度な配慮を感じたことがありますか？」というアンケートを取った。その結果、45%の人が「過度な配慮を感じたことがある」と答えた。また、Yahooで「LGBTQ+」と検索すると、上位の候補に「うんざり」という言葉が表示されることがある。このことから、一部の人がLGBTQ+への配慮に過剰感を抱いていることがうかがえる。具体的にどのような場面で過度と感じられているのか。その一例として「トイレ問題」が挙げられる。

東京の歌舞伎町タワーには、ジェンダーレストイレが設置され、国連の持続可能な開発目標（SDGs）が掲げる「誰一人取り残さない」社会の実現を目指した。しかし、わずか4ヶ月で廃止され、多くの利用者、特に女性から「安心して使えない」「男性が怖い」といった声がSNSで見られた。男女平等が進んでいるとはいえ、男性と女性の性差は依然として根強く存在している。このような取り組みは、「多様性」を目指す上での間違った方向だったのだろうか。私たちはそうではないと考える。

例えば、障害のある子どもや高齢者の介助が必要な場合、異性のトイレを利用しづらいという問題がある。また、多目的トイレは広い設置スペースが必要で、予算の面でも設置数が限られているのが現状だ。したがって、今後も試行錯誤しながら、誰もが安心して使えるジェンダーレストイレの設置を目指すべきである。この事例一つを見ても、誰かにとって「過ごしやすい社会」が、他の誰かにとっては必ずしも同じではないことがわかる。頭ごなしに「多様性」という言葉を使うには、その意味はあまりにも複雑で難しいのだ。

こうした背景を踏まえ、LGBTQ+を受け入れることが、多文化社会でどのように影響するのかを考えた。多様な価値観や文化をまず知ることが、理解を深めるための第一歩であると考えている。価値観を学ぶ上で、宗教は切り離せない要素である。私たちの留学での経験を踏まえ、宗教の観点からLGBTQ+への考え方について調査した。世界中で多様性が広まってきたが、宗教では女性が男性よりも権利が低いことや、SDGsとは反する部分が沢山あるので世界中の宗教を信仰している方々がどのように考えているかが気になった。修学旅行

では海外の宗教を信仰している方々が同性愛についてどう思うかについて質問をした。海外の宗教を信仰している人々はLGBTQ+については批判しないが宗教と現実の世界は別だと考えていることがわかった。インタビューではキリスト教の人々にしか聞くことができなかったため、世界でのイスラム教の社会について調べて現状について考えた。

調べてみると、イスラム教の世界ではシャリア法というイスラム教の厳重な法律があった。その中でははっきりと男性の方が優位であることが書かれていた。私は国際化が進みLGBTQ+への理解が深まってきている中で、差別的な文化はどうすれば良いのか疑問に思った。確かに日本目線で見れば、女性差別は酷いことでなくすべきだと思う。だがそれが文化となると先進国側だけの意見で批判してしまうのも違うと考える。また発展途上国の多くの国はまだLGBTQ+や男性と女性への差別があった。自分の生活に精一杯な発展途上国の人々にとっては性別や平等などの問題はまだ重要視されていないのだと思った。

日本もまたLGBTQ+への理解が浅い国の一つだ。日本は島国で歴史的に閉鎖的だった時期もあり、外国からの移民や文化が入りにくかった。それに加え、大陸で国がつながっているヨーロッパなどとは異なり日本の国だけの考え方や文化で生活することができた。日本はG7の中で唯一LGBTQ+差別に対して処罰をするという法律がない。日本は先進国でありながらLGBTQ+や多様性、平等について理解が根付きにくい国の一つだと考える。

現在、世界中で起きている争いの多くは文化や考え方の違いから起きていると考える。人々は相手のことを分かったつもりになり自分が正しいと思い込んでしまっていることがある。自分の中の常識、当たり前だと思っていることが必ず正しいとは限らないと理解する必要がある。

#### 4. 結論

今回の探究を通じて、LGBTQ+や多様性に関する問題は、貧困や差別といった国際的な問題と深く結びついていることを学んだ。身近に感じにくい問題に注目することは難しいかもしれないが、国際協力によって一つひとつ解決していくことが必要である。また、宗教とLGBTQ+の関係はまだ難しい課題であり、変化には時間がかかるが、国際的に協力し解決していくべきだ。LGBTQ+の人々が愛する人と自由に生きられる未来を目指し、私たちは互いを理解し尊重し合うことが重要である。私たち自身の「当たり前」が常に正しいとは限らないと理解し、多様な視点を持つことが求められているのだ。

#### 5. 参考文献

LGBTQ+とは. Tokyo Rainbow Pride. “about LGBTQ+”. 2024.  
<https://www.google.com/gasearch?q=LGBTQ&source=sh/x/g/m2/5>, (2024)

東京新聞. ”「ジェンダーレストイレ」わずか4ヶ月で廃止 新宿 歌舞伎町タワー「安心して使えない」抗議殺到の末に”. 2023-08-03.  
[https://www.google.com/url?q=https://www.tokyo-np.co.jp/article/267703&sa=U&sqi=2&ved=2ahUKEWj69brCmeWJAxUSsIYBHUknFOYQFnoECCEQAQ&usg=AOvVaw1opUf7w68M\\_tklhuPc6U2B](https://www.google.com/url?q=https://www.tokyo-np.co.jp/article/267703&sa=U&sqi=2&ved=2ahUKEWj69brCmeWJAxUSsIYBHUknFOYQFnoECCEQAQ&usg=AOvVaw1opUf7w68M_tklhuPc6U2B), (2024)

一般団法人ハラルジャパン. 2024.  
<https://www.google.com/url?q=https://jhba.jp/halal/islam/&sa=U&sqi=2&ved=2ahUKEwiMxrHyWJAxXjsFYBHU3FFRwQFnoECDoQAQ&usg=AOvVaw0-go3rQfzgGZcE4CX62OW2>, (2024)

外務省. 「イスラム研究会」報告書. 2000年12月.  
[https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/islam/islam\\_12.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/islam/islam_12.pdf), (2024)